

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)

セッション討議内容の記録

| | |
|--|--|
| セッション名：土木計画のための景観研究を考える（２）「都市・地域研究と景観」 | |
| 日付： 6月 7日（土）曜日，セッション時間： 10:30 ~ 12:00 | |
| オーガナイザー・司会者名(所属)：田中尚人（熊本大学） | |
| 討 議 内 容 | <p>セッション全体：</p> <p>機器のトラブルにより，セッションのまとめはできなかった．</p> |
| | <p>(発表番号) 発表者名 (所属)：(284) 藤倉英世（藤倉設計事務所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1．開田村では結果的にこうなったのか，戦略的に関連施策をうったのか 2．景観に関連する事業だけでなく，景観に関連しない，一見関係していないものの方が，実はきいている，という事例はありませんか？（佐々木葉） <p>ある程度，景観は資源として考えられているが，始まりは戦略的ではなかった．しかし，あとの方になると戦略性が出てくる．</p> <p>2．の質問はその通りです．</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「旧」になった後，つまり合併した後，活動はどうなったのか（土橋） <p>担当者が，死守して，合併後の木曾町に広がっていった．地域の違いはあるので，それぞれの公共的枠組みを模索していくことが大切であるとする．</p> |
| | <p>(発表番号) 発表者名 (所属)：(285) 砂川尊範（建設技術研究所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレイスマーケティングはどこからスタートするのですか？（柴田） <p>イメージマーケティングから．</p> <p>原図である，コトラーの図には，ピープルからイメージへの矢印はない（共同研究者：土井）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画と実空間を結ぶのに大切なのは何ですか？（田中） <p>風景が「分かり易い」と思われる（土井）</p> |
| | <p>(発表番号) 発表者名 (所属)：(286) 樋口 綾（香川大）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指標体系に興味がある．アフォーダンスの定義を教えてください（鈴木） <p>花王がつくった 16 項目に + 満足感としたもの．</p> <p>「場所性」をさらに加えています（土井）</p> |

(発表番号) 発表者名 (所属) : (287) 佐々木哲也 (中央コンサルタント)

- ・研究目的のセルフビルドであるが、メンテナンスとごっちゃになっていないか (土橋)
- ・洗練されていないけど、「そこそこのデザイン」というのは、景観というよりは、コミュニティ形成などに役立つのではないか (天野)
手間工夫を重ね、落とし処が生まれた
- ・コストが安いから、というのでは危ない気がする。そもそも行政がやるべき仕事ではないのか？ (吉武)

(発表番号) 発表者名 (所属) : (287) 内藤誠一郎 (立命館大)

- ・連携効果とは何か？数理モデルを使う前に議論しておくべきことがたくさんあるように思う (谷口：岡山大)
十分議論できていません。
- ・活性化という言葉に対して、疲れた時のドリンク剤的なニュアンスを受ける。「地域活性化」に対する指標として、どんなものを考えておられるのか？ (天野)
貨幣価値。農業は他の産業と比べ、収入が少なく、収入増が一番考えていることである。